

## エゼキエル書29-32章「共倒れさせる大国」

### 1A 頼りにならない国 29

#### 1B 葦の杖 1-16

1C 川から追い出されるワニ 1-9

2C 何でもない国 10-16

#### 2B バビロンへ報酬 17-21

### 2A 剣に倒れる国 30

#### 1B 曇った主の日 1-19

1C 同盟国の人々 1-9

2C 偽りの神々 10-19

#### 2B 挿げ替えられる腕 20-26

### 3A 高くそびえる杉 31

#### 1B アッシリヤの美しさ 1-9

#### 2B 倒れ、陰府に降る木々 10-18

### 4A 「若い獅子」の滅び 32

#### 1B 暴れるわに 1-16

1C 獣のための肉 1-10

2C 静まる川 11-16

#### 2B 地下に横たわる国々 17-32

## 本文

エゼキエル書 29 章です。私たちはついに、エゼキエル書の前半部分を今日、読み終えます。主が、エルサレムをバビロンによって裁かれることを宣言し、また周囲の国々が裁かれることを宣言しているのが、1 章から 32 章まで。そして 33 章から最後 48 章までが、その破壊されたイスラエルを神が回復させ、神殿も回復させるという預言があります。今日は、周囲の国々の中で最も長い預言となっている、エジプトに対する預言です。

### 1A 頼りにならない国 29

#### 1B 葦の杖 1-16

1C 川から追い出されるワニ 1-9

29:1 第十年の第十の月の十二日に、私に次のような主のことばがあった。

29 章から 32 章までには、合計七つの預言があります。ほとんどが、エルサレムがバビロンに包囲されて、バビロンに陥落する前後のことです。ここ第一の預言では、「紀元前 587 年 1 月 5 日」

であり、包囲後約一年が経っている時です。

29:2 「人の子よ。顔をエジプトの王パロに向け、彼およびエジプト全体に預言し、29:3 こう語って言え。神である主はこう仰せられる。エジプトの王パロよ。わたしはあなたに立ち向かう。あなたは、自分の川の中に横たわる大きなわにで、『川は私のもの。私がこれを造った。』と言っている。29:4 わたしはあなたのおごに鉤をかけ、あなたの川の魚をあなたのうろこにつけ、あなたと、あなたのうろこについている川のすべての魚とを川の中から引き上げる。29:5 あなたとあなたの川のすべての魚とを荒野に投げ捨てる。あなたは野原に倒れ、集められず、葬られることもない。わたしがあなたを地の獣と空の鳥のえじきとするとき、29:6 エジプトの住民はみな、わたしが主であることを知ろう。彼らが、イスラエルの家に対して、葦の杖にすぎなかったからだ。29:7 彼らがあなたの手をつかむと、あなたは折れ、彼らのすべての肩を砕いた。彼らがあなたに寄りかかると、あなたは折れ、彼らのすべての腰をいためた。29:8 それゆえ、神である主はこう仰せられる。わたしは剣を送ってあなたを攻め、人も獣も、あなたのうちから断ち滅ぼす。29:9 エジプトの地は荒れ果てて廃墟となる。このとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。それは彼が、『川は私のもの。私がこれを造った。』と言ったからだ。

主は今、エジプトのパロに立ち向かっておられます。彼の名は「ホフラ」です、エレミヤ書 44 章 30 節に出てきます。彼こそが、包囲されているエルサレムを助けるべく、軍を出した張本人です。それでバビロンは対抗するために一時的に包囲を解除しました。それでエルサレムは、バビロンから独立できるものとばかり期待したのですが、戻ってきたバビロンはその反逆のゆえ完全にエルサレムを破壊するのです。このようにホフラは、ユダの民が最終的に神に裁かれるよう誘引したことにあります。

エジプトには、その長い歴史と国の成り立ちの中で大きな問題を持っていました。それは、「川は私のもの。私がこれを造った。」という誇りです。エジプトは砂漠の中にあります。けれども、ナイル川が流れているために土地は肥沃になり、文明を発達させ、強国になりました。ナイルこそが、エジプト文明の源泉でありました。ところが彼は、そのナイル川を自分自身が造ったと豪語したのです。主は、彼を川の中にいるワニに例えておられます。ところで、ヘブル語では、海の巨獣という意味であり、竜とも訳すことができるものです。ですから、もしかしたら主は、エジプトの背後にある悪魔の力も意識して語っておられるかもしれません。話を戻しますと、ワニが川を造ったなど滑稽な話なのですが、前回学んだツロに対する預言のように、人はこのような高ぶりを抱きます。そしてワニは、荒野でのたれ死にますが、史実でも同じことを記録しています。彼は王として尊厳をもって葬られることなく、クーデターに遭い野垂れ死にしました。

エジプトの歴史は、古エジプト、中エジプト、新エジプトに分かれますが、古エジプト時代の偉大な文明、ピラミッド等の建築がありました。それ以降、彼らの文明が何か進展したわけではありま

せんでした。強さを誇りながら、中身は何も変わることなく、少しずつ内部が弱体化していったのがエジプトです。私たちは 2008 年にエジプトを訪れました。カイロのエジプト博物館で、そのエジプトの最後を見たときは哀れでした。エジプト人の彫刻の頭の部分が取り除かれ、ギリシヤ人やローマ人の頭が付けられているのです。ギリシヤとローマの支配を受けて、そのまま文明が消えてゆきました。役に立たない誇りです。私たちも、そのような誇りを持っていないでしょうか？

そしてホフラのもう一つの罪は、「他の国々を巻き添えにした」ということです。ワニの鱗にたくさんの魚が付いています。わにが荒野に引き上げられる時に、魚もともに放り出されます。これらは、エジプトに頼ってバビロンから救われようとした国々であります。その一つにユダがありました。それゆえイスラエルの家にとって、葦の杖であると書いてあります。詳しいことは、午前礼拝のメッセージを聞いてください。

### 2C 何でもない国 10-16

29:10 それゆえ、わたしは、あなたにもあなたの川にも立ち向かい、エジプトの地を、ミグドルからセベネ、さらにクシュの国境に至るまで、荒れ果てさせて廃墟にする。29:11 人の足もそこを通らず、獣の足もそこを通らず、四十年の間だれも住まなくなる。29:12 わたしはエジプトの地を、荒れ果てた国々の間で荒れ果てさせ、その町々も四十年の間、廃墟となった町々の間で荒れ果てる。わたしはエジプト人を諸国の民の中に散らし、国々に追い散らす。29:13 まことに、神である主はこう仰せられる。四十年の終わりになって、わたしはエジプト人を、散らされていた国々の民の中から集め、29:14 エジプトの捕われ人を帰らせる。彼らをその出身地、パテロスの地に帰らせる。彼らはそこで、取るに足りない王国となる。29:15 どの王国にも劣り、二度と諸国の民の上にぬきんではくことはない。彼らが諸国の民を支配しないように、わたしは彼らを小さくする。29:16 イスラエルの家は、これに助けを求めるとき、咎を思い起こして、もう、これを頼みとしなくなる。このとき、彼らは、わたしが神、主であることを知ろう。」

エジプト人も、ユダヤ人と同じくバビロンによって倒れ、捕囚の民となりました。40 年間という期間は、正確にはどの出来事を指しているのか分かりませんが、彼らも、ペルシヤ人クロス王がペルシヤを倒して、ペルシヤによってエジプトに戻って来ることができたのかもしれませんが。(パテロスとは、上エジプト(上流部分)の地域と言われています。)けれども 40 年間というのは、イスラエルが荒野の旅をしていたことを思い出します。神の裁きのゆえに、40 年間約束の地に入ることができなかったように、エジプト人も自分たちの土地に戻るができなかった、ということです。

そして大事なメッセージは、彼らが戻ってくると、もうあの大国の姿が無くなっているということです。先ほど話したように、エジプトという国が何でもない国となり、ギリシヤとローマ時代においては完全に吸収されています。このことを通して、イスラエルが、自分たちが役に立たないものに頼っていたことを思い出させ、その罪を悔い改めさせるということです。自分たちが頼っていたものが、

こんなにも小さな存在だったのだと後で気づいて恥を見るのです。私たちも、自分たちが頼りにしていたものがどれだけ力なく、小さい存在であるかを思う必要がありますね。

## 2B バビロンへ報酬 17-21

29:17 第二十七年の第一の月の一日に、私に次のような主のことばがあった。

預言が与えられた期日が、ずっと後になっていることに気づいてください。紀元前 571 年の 4 月 26 日で、もうエルサレムはずっと前にバビロンに破壊されて、ツロが 13 年間のバビロンの包囲に対して降伏したばかりの時です。

29:18 「人の子よ。バビロンの王ネブカデザルはツロ攻撃に自分の軍隊を大いに働かせた。それで、みな頭ははげ、みな肩はすりむけた。それなのに、彼にも彼の軍隊にも、ツロ攻撃に働いた報いは何もなかった。29:19 それゆえ、神である主はこう仰せられる。わたしはバビロンの王ネブカデザルにエジプトの地を与えよう。彼はその富を取り上げ、物を分捕り、獲物をかすめ奪う。それが彼の軍隊への報いとなる。29:20 彼が働いた報酬として、わたしは彼にエジプトの地を与える。彼らがわたしのために働いたからだ。…神である主の御告げ。…29:21 その日、わたしはイスラエルの家のために、一つの角を生えさせ、彼らの間であなたに口を開かせる。このとき彼らは、わたしが主であることを知ろう。」

ツロの町はバビロンの包囲の間に陸から島に動きました。城壁が破れた後に、陸のツロの中に残っている略奪品がありませんでした。「頭がはげた」というのは兜を兵士らがずっとかぶっていたからです。「肩がすりむけた」というのは、城壁くずしのために木や石を肩にかついで運んでいたからです。こんなに兵士たちに苦勞させたのに、なんら報酬を与えることができなかったわけです。しかし、バビロンがツロ攻略の後にエジプトを攻めます。そしてエジプトにある分捕り物をもって、兵士たちに報酬を与えることができるようになる、ということです。そして、この時にクーデターでホフラが死にます。紀元前 567 年のことです。

そして、自分たちが頼っていたエジプトが無くなって、それでイスラエルが少しずつ、自分たちに角、すなわち力と権威が回復されていくのを感じ始めます。エゼキエルはエルサレムに対する預言について、24 章の時点で口が閉ざされました。けれども、エルサレムが陥落し、そして神がイスラエルを再び立たせることを決められてから、語り始めます。そして、実際に預言どおりになっていくときに、彼はさらに確信をもって人々に語るのです。主は私たちにも、同じようにしてくださいます。自分の頼っていたものが取り除かれる時に、初めてご自分の角、すなわち神の権威と力を示し始めてくださいます。

## 2A 剣に倒れる国 30

30 章は、エジプトが剣で倒れる姿を生々しく描いています。

### 1B 曇った主の日 1-19

#### 1C 同盟国の人々 1-9

30:1 次のような主のことばが私にあった。30:2 「人の子よ。預言して言え。神である主はこう仰せられる。泣きわめけ。ああ、その日よ。30:3 その日は近い。主の日は近い。その日は曇った日、諸国の民の終わりの時だ。30:4 剣がエジプトに下り、刺し殺される者がエジプトで倒れ、その富は奪われ、その基がくつがえされるとき、クシュには苦痛が起きる。30:5 クシュ、プテ、ルデ、アラビヤ全体、クブ、彼らの同盟国の人々も、彼らとともに剣に倒れる。30:6 主はこう仰せられる。エジプトをささえる者は倒れ、その力強い誇りは見下げられ、ミグドルからセネベに至るまでみな剣に倒れる。…神である主の御告げ。…30:7 エジプトは荒れ果てた国々の間で荒れ果て、その町々も、廃墟となった町々の間にあって荒れ果てる。30:8 わたしがエジプトに火をつけ、これを助ける者たちがみな滅ぼされるとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。30:9 その日、わたしのもとから使者たちが船で送り出され、安心しているクシュ人をおののかせる。エジプトの日に、彼らの間に苦痛が起きる。今、その日が来ている。

「主の日」と言えば、世の終わりに世界全体に下る神の裁きの日のことを指します。(例:イザヤ 13:6,9)。エゼキエル書のこの部分では、具体的にはバビロンを通して主がエジプトに裁きを下されるのですが、その出来事が将来の最終的裁きを指し示すものになっているため、このような預言になっています。曇る日が来て、天が暗くなります。イエス様が十字架に付けられていた時もそうでしたが、終わりの日もそうになると多くの預言者が語りました。

エジプト全土で人々が剣で倒れます。ミグドルはシナイ半島の方からエジプトに入る時の国境の町であり、セネベはエジプト上流にある今のアスワンダムのアスワンです。そして、その力に頼って同盟を結んでいた周りの国々も倒れます。この姿が終わりを予め示す型となっているのです。ダニエル書 12 章に反キリストが、「国々に手を伸ばし、エジプトの国ものがれることはない。彼は金銀の秘蔵物と、エジプトのすべての宝物を入れ、ルブ人とクシュ人が彼につき従う。(42-43 節)」とあります。エジプトの同盟国として一番苦痛を受けるのはクシュ、つまりエチオピアです。今のスーダン、エチオピア、そしてエジプトの南の部分を含みます。彼らが最も痛手を被ります。それからプテは今のリビアです。そしてルデはトルコの西にあったと言われています。したがって、周辺国が、エジプトの荒廃によって慌てふためくのです。彼らは、エジプトに頼っていたのに滅ぼされたので、自分たちはバビロンに対してどうなってしまうのか恐れ震えました。

### 2C 偽りの神々 10-19

30:10 神である主はこう仰せられる。わたしはバビロンの王ネブカデレザルによって、エジプトの

富を取り除く。30:11 彼と、彼の民、すなわち、最も横暴な異邦の民がその地を滅ぼすために遣わされる。彼らは剣を抜いてエジプトを攻め、その地を刺し殺された者で満たす。30:12 わたしはナイル川を干上がった地とし、その国を悪人どもの手に売り、他国人の手によって、その国とそこにあるすべての物を荒れ果てさせる。主であるわたしがこれを語る。30:13 神である主はこう仰せられる。わたしは偶像を打ちこわし、ノフから偽りの神々を取り除く。エジプトの国には、もう君主が立たなくなる。わたしはエジプトの地に恐怖を与える。30:14 わたしはパテロスを荒らし、ツォアンに火をつけ、ノにさばきを下す。30:15 わたしはエジプトのとりでシンにわたしの憤りを注ぎ、ノの群集を断ち滅ぼす。30:16 わたしはエジプトに火をつける。シンは大いに苦しみ、ノは砕かれ、ノフは昼間、敵に襲われる。30:17 オンとピ・ベセテの若い男たちは剣に倒れ、女たちはとりことなっていく。30:18 わたしがエジプトのくびきを砕き、その力強い誇りが絶やされるとき、タフパヌヘスでは日は暗くなり、雲がそこをおおい、その娘たちはとりことなっていく。30:19 わたしがエジプトにさばきを下すとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。」

主は、周囲の同盟国、エジプトの富だけでなく、エジプトの神々をも滅ぼされます。ここに出てくる都市の多くは、偶像礼拝で有名なところ。出エジプト記における十の災いは、それぞれ神々として拝まれているものに対する裁きであったことを思い出してください。エジプトは太陽神ラーを筆頭にして、あらゆるものが神として崇められています。ペルシヤの王カンビュセスは、エジプトと戦う時に、最前線に犬と猫を解き放ったと言われています。エジプト人がそれらを神々として恐れていたためです。例えば「ノフ」はメンピスのことです。エジプトの首都でありましたが、他の都市に首都が移動してからは、宗教の中心地となりました。17 節の「オン」で、太陽神ラーを崇める宮がありました。エジプトのように、私たちが富に頼る時、目に見えるもの、その安定に頼る時は、必ず偶像を造っています。自分の思っているもの、願っているものが偶像になっていて、それに仕えています。

そして、これらが滅ぼされていく時に、「日は暗くなり、雲がそこをおおい」と再び、天候が暗くなることを言及しています。思えば出エジプト記において、第九の災いが暗闇でありました。そして終わりの日に、エジプトの辺りが暗闇に包まれることは確かです。

## 2B 挿げ替えられる腕 20-26

30:20 第十一年の第一の月の七日、私に次のような主のことばがあった。30:21 「人の子よ。わたしはエジプトの王パロの腕を砕いた。見よ。それは包まれず、手当をされず、ほうたいを当てて包まれず、元気になって剣を取ることもできない。30:22 それゆえ、神である主はこう仰せられる。わたしはエジプトの王パロに立ち向かい、強いが砕かれている彼の腕を砕き、その手から剣を落とさせる。30:23 わたしはエジプト人を諸国の民の中に散らし、国々に追い散らす。30:24 しかし、わたしはバビロンの王の腕を強くし、わたしの剣を彼の手に渡し、パロの腕を砕く。彼は刺された者がうめくようにバビロンの王の前でうめく。30:25 わたしはバビロンの王の腕を強くし、パロの腕

を垂れさせる。このとき、わたしがバビロンの王の手にわたしの剣を渡し、彼がそれをエジプトの地に差し向けると、彼らは、わたしが主であることを知ろう。30:26 わたしがエジプト人を諸国の民の中に散らし、彼らを国々に追い散らすとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。」

時は、「第十一年の第一の月の七日」紀元前 587 年 4 月 29 日です。バビロンがエルサレムを破壊するのは 586 年 8 月 17 日でしたので、陥落する一年以上前のことです。これは、最後のホフラの戦いのことでありますが、もっと大きな視野でみると、エジプトがイスラエルの地に力を及ぼしていたところから、カルケミシュの戦いの後に支配権を失い、バビロンが腕を強めたということが、ここの預言が言及されていることです。エジプトの王がいつまでも、その権力にすがってしようとしたところ、神が無理やりにでもそれをバビロンの王に委譲させないといけないと思います。主は、王たちを立て、王たちを倒されるとダニエルは祈りました。主がすでに変えられたものを、いつまでも固執すれば、このように無理やりにでもその腕を砕かれます。

### **3A 高くそびえる杉 31**

次に主は、超大国の姿を大きな杉の木に例えられます。

#### **1B アッシリヤの美しさ 1-9**

31:1 第十一年の第三の月の一日、私に次のような主のことばがあった。

預言の時は紀元前 587 年 6 月 21 日のことです。「腕」についての預言から二ヶ月後です。

31:2 「人の子よ。エジプトの王パロと彼の大軍に言え。あなたの偉大さは何に比べられよう。31:3 見よ。アッシリヤはレバノンの杉。美しい枝、茂った木陰、そのたけは高く、そのこずえは雲の中にある。31:4 水がそれを育て、地下水がこれを高くした。川々は、その植わっている地の回りを流れ、その流れを野のすべての木に送った。31:5 それで、そのたけは、野のすべての木よりも高くそびえ、その送り出す豊かな水によって、その小枝は茂り、その大枝は伸びた。31:6 その小枝には空のあらゆる鳥が巣を作り、大枝の下では野のすべての獣が子を産み、その木陰には多くの国々がみな住んだ。31:7 それは大きくなり、枝も伸びて美しかった。その根を豊かな水におろしていたからだ。31:8 神の園の杉の木も、これとは比べ物にならない。もみの木も、この小枝とさえ比べられない。すずかけの木も、この大枝のようではなく、神の園にあるどの木も、その美しさにはかなわない。31:9 わたしが、その枝を茂らせ、美しく仕立てたので、神の園にあるエデンのすべての木々は、これをうらやんだ。

今、エジプトに対する預言ではありますが、主はアッシリヤを取り扱われておられます。覚えていすか、エジプトの腕が初めに折られた出来事は、カルケミシュの戦いでありました。ネブカデネザルの父ナボポラッサルは、紀元前 626 年にバビロンの町をアッシリヤから取り上げました。そして

勢力をまして、ついに 612 年にアッシリヤの首都ニネベを倒したのです。そしてアッシリヤは急いで、東方のハランに撤退しました。そこに現われたのが、エジプトです。時のパロ・ネコがバビロンに対抗すべく、アッシリヤを支援するために北上しました。その途中で、メギドで戦いにやってきたヨシヤを倒しました(2歴代 35:20)。けれども、ナボポラッサルの息子ネブカデネザルは、カルケミシュでアッシリヤ・エジプト連合軍を包囲し、紀元前 605 年に決定的な打撃を加えたのです。この時に、その全地域のパワーポリティックス、すなわち国の勢力圏がエジプトからバビロンに移りました(2列王 24:7)。

ですから、アッシリヤが倒れたことはエジプトが助けることができなかつた一例なのです。そしてエジプト自身も後に、バビロンに滅ぼされます。エルサレムを助けることができなかつたエジプトは、その前にアッシリヤも助けることができませんでした。その時から既にエジプトは、役に立たない誇り高ぶりを持っていたのです。

アッシリヤをレバノンの杉の木に例えておられます。かつてイザヤが、同じようにエルサレムを包囲するアッシリヤ軍をレバノンの杉の木に例えて、主がそれを切り倒されることを預言しました(11:34)。レバノンの杉は、その高さや質で有名です。そして、丈が高くなり、小枝が茂り、空の鳥が巣を作って、大枝のしだで獣が憩っている姿ですが、後にバビロンのネブカデネザルが見た夢の中で、彼自身がその木だとダニエルが解き明かしました(ダニエル 4 章)。非常に大きく、強い国となって、それを支える同盟国があり、その支配や影響の中で憩っている国々や民族がいる、という意味です。アッシリヤ帝国は、今のイラクの北部ニネベの地域から始まり、メソポタミア全域とパレスチナ、そしてエジプトにまで至る、広範囲を支配しました。

そして興味深いのは、エデンの園の木々がここに出ていることです。エデンの園の地理的位置がアッシリヤの辺りだった、ということがあります。創世記2章に、一つの川がエデンから流れており、そこから四つの支流が出ていて、「第三の川の名はヒデケルで、それはアシュルの東を流れる。(14 節)」とあります。ヒデケルはティグリス川で、アシュルはアッシリヤのことです。エデンの園の木々もうらやんだ、という言葉から、アッシリヤが神ご自身の園よりも優れているとみられたその高ぶりを感じ取ることができます。そしてアッシリヤにも、エデンの園で墮落したケルブが背後にいたのではないかと思います。ツロの王の背後に、墮落したケルブがいたように、です。

## 2B 倒れ、陰府に降る木々 10-18

31:10 それゆえ、神である主はこう仰せられる。そのたけが高くなり、そのこずえが雲の中にそびえ、その心がおごり高ぶったから、31:11 わたしは、これを諸国の民のうちの力ある者の手に渡した。彼はこれをひどく罰し、わたしも、その悪行に応じてこれを追い出した。31:12 こうして、他国人、最も横暴な異邦の民がこれを切り倒し、山々の上にこれを捨てた。その枝はすべての谷間に落ち、その大枝はこの国のすべての谷川で砕かれた。この国のすべての民は、その木陰から出



て行き、これを振り捨てた。31:13 その倒れ落ちた所に、空のあらゆる鳥が住み、その大枝のそばに、野のあらゆる獣がいるようになる。31:14 このことは、水のほとりのどんな木も、そのたけが高くならないためであり、そのこずえが雲の中にそびえないようにするためであり、すべて、水に潤う木が高ぶってそびえ立たないためである。これらはみな、死ぬべき人間と、穴に下る者たちとともに、地下の国、死に渡された。

アッシリヤの高ぶりを主が倒されました。アッシリヤにも、そこに群がってその便益を得ている国々や諸勢力がありましたが、彼らは逃げて行きました。そして、その踏み倒された所に、新たに国々がやってきました。そのために、アッシリヤは二度と復興することはなかったのです。それが、枝が落ちたところに空のあらゆる鳥が住んでいる、という表現であります。このようにして、主ご自身がアッシリヤの高ぶりを最も低くされたのです。そして、ただ倒されただけではありません。彼らを死後、地下の国に渡されます。

31:15 神である主はこう仰せられる。それがよみに下る日に、わたしはこれをおおって深淵を喪に服させ、川をせきとめて、豊かな水をかわかした。わたしがこれのためにレバノンを憂いに沈ませたので、野のすべての木も、これのためにしおれた。31:16 わたしがこれを穴に下る者たちとともによみに下らせたとき、わたしは諸国の民をその落ちる音で震えさせた。エデンのすべての木、レバノンのえり抜きの良い木、すべての水に潤う木は、地下の国で慰められた。31:17 それらもまた、剣で刺し殺された者や、これを助けた者、諸国の民の間であって、その陰に住んだ者たちとともに、よみに下った。31:18 エデンの木のうち、その栄えと偉大さで、あなたはどれに似ているだろうか。あなたもエデンの木とともに地下の国に落とされ、剣で刺し殺された者とともに、割礼を受けていない者たちの間に横たわるようになる。これは、パロと、そのすべての大軍のことである。・・神である主の御告げ。・・」

アッシリヤが地下の国、陰府に降る様子を生々しく表現しています。豊かな水や川はなくなり、乾いた状況になり、萎れます。これは、これだけの力を持っていたアッシリヤから命がなくなることを意味します。霊的な死です。そして、穴に降るとすでにアッシリヤによって利益を得ていた者たちが待っていました。これらの者たちが先に死んでいたのですが、その親玉が降りて来たので、慰めを得たのです。「同類相憐れむ」です。この地上でどんなに力を持っていても、どんなに美しい人でも、どんなに知恵のある人でも、死んだ後はまったく同じ状態に落ちます。死だけでは終わらないのです、死んだら、その後に神の裁きがあるのです(ヘブル 9:27)。

そしてこのアッシリヤの姿が、実はパロとその大軍の姿であると言っています。「アッシリヤはこのような運命を辿ったのだよ。そしてあなたは、これに引き続き、滅びる運命にあるのだよ。」ということです。エジプトのパロ、ネコがカルケミシュで敗れた時に、まさに気づかなければいけなかったのですが、ホフラはその教訓を学びませんでした。過去の栄光にしがみつき、いつまでも実際の

自分を見つめませんでした。それで主はアッシリヤの例をお見せになったのです。使徒パウロは、コリントにある教会に対してこう警告しました。「これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。(1コリント 10:11-12)」

#### 4A 「若い獅子」の滅び 32

32 章は、再びナイル川のわにとして、パロ、ホフラを描きます。

##### 1B 暴れるわに 1-16

##### 1C 獣のための肉 1-10

32:1 第十二年の第十二の月の一日、私に次のような主のことばがあった。

時は紀元前 585 年 3 月 3 日です。すでにバビロンによる捕囚は終わっていました。ほぼ2ヶ月前に、エルサレムが滅んだことがバビロンにいる捕囚のために伝わっていました(33:21)。

32:2 「人の子よ。エジプトの王パロについて哀歌を唱えて彼に言え。諸国の民の若い獅子よ。あなたは滅びうせた。あなたは海の中のわにのようだ。川の中であばれ回り、足で水をかき混ぜ、その川々を濁らせた。

「哀歌」すなわち、エジプトの死を悼む歌です。「諸国の民の若い獅子」とは、時のパロ・ホフラの自画像です。けれども神は彼を川の中を暴れ回り、その水を濁す「わに」と見ておられます。ホフラは無意味に周囲の諸国を引き回して、最終的に滅びを招く動きしかしていませんでした。彼は自分自身を見つめることができない哀れな人でした。私たちも気を付けなければいけません、「ガラテヤ 6:3 だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思うなら、自分を欺いているのです。」

32:3 神である主はこう仰せられる。わたしは、多くの国々の民の集団を集めて、あなたの上にわたしの網を打ちかけ、彼らはあなたを地引き網で引き上げる。32:4 わたしは、あなたを地に投げ捨て、野に放り出し、空のあらゆる鳥をあなたの上に止まらせ、全地の獣をあなたで飽かせよう。32:5 あなたの肉を山々に捨て、あなたのしかばねで谷を満たし、32:6 あなたから流れ出る血で地を浸し、その血で山々を潤す。谷川もあなたの血で満たされる。32:7 あなたが滅び去るとき、わたしは空をおおい、星を暗くし、太陽を雲で隠し、月に光を放たせない。32:8 わたしは空に輝くすべての光をあなたの上で暗くし、あなたの地をやみでおおう。…神である主の御告げ。…32:9 わたしが、諸国の民、あなたの知らない国々の中であなたの破滅をもたらすとき、わたしは多くの国々の民の心を痛ませる。32:10 わたしは多くの国々の民をあなたのおののかせる。彼らの王たちも、わたしが彼らの前でわたしの剣を振りかざすとき、あなたのおぞ気立つ。あな

たのくずれ落ちる日に、彼らはみな、自分のいのちを思って身震いし続ける。

ホフラが野垂れ死にする姿を描いていると同時に、30章にあった「主の日」の姿をも醸し出しています。全地の獣がその死体を食べる事、しかばねが山々や谷に満ちること、空が真っ暗になることなど、すべて終わりの日の徴です。イエス様が戻られる時に、諸国の軍隊は滅ぼされ、その肉を食べるため猛禽があつまり、神の宴会が始まります。そして主が戻られる時に、天が暗くなるという神の裁きもあります。

### 2C 静まる川 11-16

32:11 まことに、神である主はこう仰せられる。バビロンの王の剣があなたに下る。32:12 わたしは勇士の剣で、あなたの群集を倒す。彼らはみな最も横暴な異邦の民だ。彼らはエジプトの誇りを踏みにじり、その群集はみな滅ぼされる。32:13 わたしはあらゆる家畜を、豊かな水のほとりで滅ぼす。人の足は二度とこれを濁さず、家畜のひづめも、これを濁さない。32:14 そのとき、わたしはこの水を静める。その川を油のように静かに流れさせる。・・神である主の御告げ。・・32:15 わたしがエジプトの国を荒れ果てさせ、この国にある物がみなはぎ取られ、わたしがその住民をみな打ち破るとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。32:16 これは人々が悲しんで歌う哀歌である。諸国の民の娘たちはこれを悲しんで歌う。エジプトとそのすべての群集のために、彼女らはこの哀歌を悲しんで歌う。・・神である主の御告げ。・・」

先に主は、パロは川々を濁すわにだと言われました。けれども主がそれを静かにさせると言われます。エジプトが行なっていた周囲の国々に対する介入が、バビロンによる決定的な打撃を受けて、完全に静かになります。エジプトのような存在、自分自身をわきまえないで高ぶっている時に、うるさくなります。主こそ神であるという真理を見えなくさせる、騒々しさです。主は必ずこれらの騒がしさを静められます。そして信仰者は、絶えず、この主を見つめる時と場所を持たなければいけません(ゼカリヤ 2:13 参照)。

32:15 わたしがエジプトの国を荒れ果てさせ、この国にある物がみなはぎ取られ、わたしがその住民をみな打ち破るとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。32:16 これは人々が悲しんで歌う哀歌である。諸国の民の娘たちはこれを悲しんで歌う。エジプトとそのすべての群集のために、彼女らはこの哀歌を悲しんで歌う。・・神である主の御告げ。・・」

当時人々は葬式の時に、悲しむことを職業にしている「泣き」のプロを雇います。その女の人々のように、国々がエジプトが倒れた時に歌うことになる、ということです。

### 2B 地下に横たわる国々 17-32

32:17 第十二年の第一の月の十五日、私に次のような主のことばがあった。

ついにエジプトに対する最後の預言、そして 25 章から始まった諸国に対する預言の最後になります。時は「第十二年の第一の月の十五日」とありますが、「第一」はヘブル語の本文にはないので、先の預言「第十二年の第十二の月一日」と同じ月であると考えられます。だから「第十二の月の十五日」です。つまり、前の預言の2週間後に与えられたと考えられます。

32:18 「人の子よ。エジプトの群集のために嘆け。その民と強国の民の娘たちとを、穴に下る者たちとともに地下の国に下らせよ。32:19 『あなたはだれよりもすぐれているのか。下って行って、割礼を受けていない者たちとともに横たわれ。』32:20 その国は剣に渡され、彼らは剣で刺し殺された者たちの間に倒れる。その国とそのすべての群集を引きずり降ろせ。32:21 勇敢な勇士たちは、その国を助けた者たちとともに、よみの中から語りかける。『降りて来て、剣で刺し殺された者、割礼を受けていない者たちとともに横たわれ。』と。

エジプトが事実、地下の国に落ちていった様子です。ここで強調されているのは、「あなたはだれよりもすぐれているのか」であります。陰府に降れば、全ての人が等しくなります。「割礼を受けていない者たち」とは、神との契約を持っていないということを強調しています。神を度外視して生きて来た者たちです。地上ではどんなに力ある者も、横暴な者も、死んで、死後に裁きを受ける時は何でもなくなります。そして他に剣をもって横暴な者たちも、主がその騒がしさを静めるために滅ぼして、既にそこに先着していました。

32:22 その墓の回りには、アッシリヤとその全集団がいる。みな、刺し殺された者、剣に倒れた者たちである。32:23 彼らの墓は穴の奥のほうにあり、その集団はその墓の回りにはいる。彼らはみな、刺し殺された者、剣に倒れた者、かつて生ける者の地で恐怖を巻き起こした者たちである。

数々の国の軍隊で筆頭に挙げられているのは、アッシリヤです。多くの者たちを残酷な形で殺し、そして自分たちが殺された後に、このような墓に住んでいます。彼らが「穴の奥のほう」にあるというのが興味深いです。先に倒れて、死んで行ったからです。

32:24 そこには、エラムがおり、そのすべての群集もその墓の回りにはいる。彼らはみな、刺し殺された者、剣に倒れた者、割礼を受けずに地下の国に下った者、生ける者の地で恐怖を巻き起こした者たちである。それで彼らは穴に下る者たちとともに自分たちの恥を負っている。32:25 その寝床は刺し殺された者たちの間に置かれ、そのすべての群集も、その墓の回りにはいる。みな、割礼を受けていない者、剣で刺し殺された者である。彼らの恐怖が生ける者の地にあったからである。それで彼らは穴に下る者たちとともに自分たちの恥を負っている。彼らは刺し殺された者たちの間に置かれた。

エラムはペルシヤの所にあった国です。今のイランです。アブラハムの時代から存在していた国

ですが(創世記 14:1)、バビロンのネブカデネザルによって倒れています(エレミヤ 49:34-38)。主は、第一に彼らが生きている時に恐怖を引き起こしたこと、第二にそれゆえ剣で刺し殺されたことを強調しておられます。主は、苦しみを与える者には報いとして苦しみを与えられる方です(2テサロニケ 1:6)。復讐の神です(ローマ 12:19)。

32:26 そこには、メシェクとトバルがおり、そのすべての群衆もその墓の回りにいる。彼らはみな、割礼を受けていない者、剣で刺し殺された者である。彼らは生ける者の地で恐怖を巻き起こしたからである。32:27 彼らは、ずっと昔に倒れた勇士たちとともに横たわることはできない。勇士たちは武具を持ってよみに下り、剣は頭の下に置かれ、盾は彼らの骨に置かれている。勇士たちは生ける者の地で恐れられていたからである。32:28 あなたは、割礼を受けていない者たちの間で碎かれ、剣で刺し殺された者たちとともに横たわる。

メシェクとトバルです。トルコの北東、黒海の南部にいた人々であると言われます。現在のロシアにもまたがり、エゼキエル 38 章のゴグとマゴグの戦いの預言の中に、連合国の一つとして登場します。彼らは、アッシリヤと共にその地域を暴れ回った歴史を持っています。「ずっと昔に倒れた勇士たちとともに横たわることはできない。」とありますが、これは荣誉ある死に方ではないのだよ、ということです。地上ではその荣誉を死後に残せると思っていますが、死後はこのようであります。

32:29 そこには、エドムとその王たち、そのすべての族長たちがいる。彼らは勇敢であったが、剣で刺し殺された者たちとともに、割礼を受けていない者たち、および穴に下る者たちとともに横たわる。32:30 そこには、北のすべての君主たち、およびすべてのシドン人がいる。彼らの勇敢さは恐怖を巻き起こしたが、恥を見、刺し殺された者たちとともに下ったのである。それで割礼を受けていない彼らは、剣で刺し殺された者たちとともに横たわり、穴に下る者たちとともに自分たちの恥を負っている。

エドムはすでに 25 章において、その裁きが宣言されていましたが、彼らも人々を無慈悲に殺していき、そして自分自身も殺されて陰府に下りました。そして、イスラエルから見て北の君主たちです。そこにシドン人も含まれます。彼らも勇敢に戦っていた首長していても、その横暴さのゆえに神はそれを静ませるのです。

32:31 パロは彼らを見、剣で刺し殺された自分の群集、パロとその全軍勢のことで慰められる。..神である主の御告げ。..32:32 わたしが生ける者の地に恐怖を与えたので、パロとその群集は、割礼を受けていない者たちの間で、剣で刺し殺された者たちとともに横たわる。..神である主の御告げ。..」

最後にパロです。パロは陰府に降りてきて、「前に倒れたすべての国々とその軍隊がここに横た

わっているではないか。」と、先ほどの「同類相憐れむ」を行なっているのです。このように主は、この地上においても裁きを行なわれ、そして死後にも裁きを行なわれることを明らかにしておられます。人々は死で全てが終わりだと言います。あるいは死後には、良い所につくと考えています。エジプトがそうでした。ピラミッドを見れば分かるように、死後の世界に備えて力と財産を注いだ国です。大きな墓、高価な埋葬品、また埋葬法はものすごいものがあります。しかし、主がお見せになったのはこの哀れな姿です。

このように、主は高ぶりについて取り扱われました。ツロにおいては富における高ぶり、そしてエジプトについては軍勢における高ぶりであります。そしてエジプトに対しては、「他のものたちが自分に頼らせるけれども、中途半端な助けしかしないので、その国々も倒れて行く。」という姿もみまします。そのようなものは私たちの回りにないでしょうか？これに頼りさえすれば大丈夫だという評判は得ているので、多くの人がすがりつくのですが、惨めな姿、虚しい結果に終わってしまうのです。このようにして主はエジプトへの裁きを見せて、ご自分こそが主なる神であることを示し、私たちがこの方にひれ伏すことを教えています。そして、自分たちを押しつぶすどんな勢力も、神は確かに裁いてくださることを教えています。